



発行  
KOA 森林塾  
(事務局)  
0265-70-7065  
編集 坂野慎治  
題字 島崎洋路

### 『水と風』

通年コース第十五回開催報告「きのこ菌打ち」

暖冬のまま迎えた三月でも吹く風は冷たく感じる山小屋で、今年度最後のきのこの菌打ち。

今回は、シイタケの種駒とナメコのおが菌に、イントラ

川島さんをお願いして調達してもらったコナラの原木の組合せ。

まずは、シイタケ種駒の植菌。高速回転のドリルで、五・四・五・四・五…と原木を回



千鳥に穴あけ

転させながら千鳥に穴あけ。なるべく垂直に、六個あいちやっても大丈夫。その穴に種駒を木槌で打ち込みます。打ち忘れると、そこから雑菌が入ったり、水がたまったりするので、打ち忘れのないようにしましょう。また、地面に落としました種駒は使わないで下さい。作業は、わ



切断した二つを一組で

ずか一時間程で四十本の植菌を終了したので、小屋裏のほだ場を見学。木口が白くなっているのがいい状態。うまく菌が原木全体にまわって、仮伏せに成功したあかつきには、このように本伏せとなります。今年は早くもシイタケが顔をのぞかせていました。午後は、ナメコのおが菌を植菌。漬物樽に菌と米ぬかとおが粉を放り込み、水を加えてかき混ぜる。耳たぶほどの柔らかさ、手のひらですくって握ってみて少し水が滴る程度に。これを二つに切断した短木の片方の木口にペタペ

タ。もう片方でサンドイッチにして出来上がり。自宅栽培に挑戦する方は紐で縛ってお持ち帰りください。風通しがよくて、乾燥しすぎない場所に、寒冷紗などで直射日光を避け、たまに水分補給を。仮伏せ状態がよければ、おが菌は今年の秋、種駒原木は来年の秋に収穫できるのでは…。



短木の本伏せはこうなります

今日の作業の終了とともに、今年度の森林塾も終了となります。遠くは高知や仙台から皆勤の方をはじめ、全員が皆勤が精勤。皆さん一年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

### 今回の内容

3月10日(土)

### きのこ菌打ち

8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。事務局の挨拶と日程説明。早川講師の腐朽菌についてや原木・菌床といった

10時

きのこの栽培法、種駒・おが菌での菌打ち方法の講義。  
種駒菌打ち開始。いつもの森産業にく丸の種駒。原木はコナラ。ドリルは八千回転程の高速ドリル。刃の径は種駒の大きさに合わせて。穴あけは千鳥に、垂直に。そして、木槌で種駒をコンコンと打ち込む。地面に落ちてしまったものは使わないで下さい。

11時

本伏せの状態や木口にまで菌がまわった状態、きのこの出方を小屋裏のほだ場で確認。早くもシイタケがちらほら顔を出している。

11時30分

ちよつと早めの昼食。



木槌でコンコン

**13時**  
短木おが菌の植菌開始。こちらは大貫菌茸のなめこ。おが菌1リットルに、米ぬか2リットル、おが粉4リットルを混ぜ、水を加えて耳たぶほどの硬さにコネコネ。続いて、短め・太めのコナラ原木を半分に切断。二つ一組にするのでチヨークで線を引いてから。その一つの切断面におが菌を薄くペタペタ植菌。そして、もうひとつでサンドイッチ。

木も一箇所に集めて水をかけ、日除けにビノキの枝葉を。どちらの原木も菌が全体にまわるまでの仮伏せが大事。直射日光を避け、風通しがよく、乾燥しないところで、たまに水を補給する。自宅での栽培に挑戦したい方は、遠慮なくお持ち帰り下さい。

**14時15分**  
鳥崎先生から、NPO法人「森づくりフォーラム」のボランティア資格制度創設の紹介。五つ星にランク分けされるそうですが、

**14時45分**  
今年度の修了式。一年目の方全員が皆勤または精勤。高知や仙台から皆勤の方など、その気概と努力には頭が下がります。

**15時**  
来年度の森林塾案内のあ



おが菌をサンドイッチ

と、鳥崎先生・早川講師・イントラ川島さんの挨拶。

**15時15分**  
終了・解散。一年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

参加者/石垣さん、石田さん、石原さん、榎さん、大村さん、小池さん、坂上さん、高野さん、高橋さん、長田さん、山本さん、吉永さん、熊木さん、園田さん、長坂さん



高知から皆勤!

講師/鳥崎先生、早川講師、スタッフ/川島さん、坂野

そして、森林塾のエキスが詰まった集中コース三日間は、夏の部が8月第一週、秋の部が11月第一週の開催です。随時募集していますので、募集案内の送付を希望される方は事務局までご連絡願います。募集締切は、夏の部が7月10日(火)、秋の部が10月10日(火)です。なお、どちらもお先着順ですのでご注意ください。

さらに、企業・団体向けコースでは、カリキュラムや日程のカスタマイズが可能です。また企業の人事担当者様向けには、無料体験コースも5月と7月に開催予定です。詳しくは事務局まで。

なお、全コースの詳細は、KOA(株)のホームページでもご覧になれます。



そして、仙台からも

**二〇〇七年度の森林塾**

二〇〇七年度KOA森林塾の募集を開始しました。非常勤講師の保科先生と鳥崎先生には、間伐・枝打ち等の実践に限り、講義していただく予定です。

通年コースは5月19日(土)の樹木分類にはじまり、年間13日間で、おもに金、土の連続開催となります。二年目の方は、通年はもちろん、各回での参加も可能です。三年目以上の方は、OB参加が可能ですので、詳細を事務局までお問い合わせください。申込締切は4月10日(火)です。

また、九日間の専門コースの第一回開催は4月19日

お知らせ

2002年度の通年コースに参加された上伊那郡中川村在住の宮沢優人さんが、所有山林で行った間伐・搬出の取組を評価され、この度、2006年度の上伊那林業関係コンクルの間伐の部で、上伊那林業協会長賞を受賞されました。



専門林家ではなく、サラリーマンとして仕事をしながら、休日を利用して仲間と共に、調査から始めて、選木・間伐・造材、そして材の搬出に取り組んでこられる過程では、いろいろとご苦労があったことと思います。  
「このことを知ったとき」は大変勇気付けられるとも思いますが、うれしく思いましたし、このスギ林を見てみたいとも思いました。  
おめでとございます。これからも頑張ってください。

リレー通信

「山造りと家造り」

山本 英史



名古屋から通年コースに参加させていただいており、山本です。早いもので、通年コースも今回の講習で最後となり、皆様と揃って山造りについて学ぶのも最後かと思うと非常に寂しいです。毎回この伊那の地に足を運ぶことを楽しみにしておりますし、大変貴重な体験をすることが出来、KOA森林塾に参加させていただき、本当に良かったなと思っております。これも、鳥崎先生を始め、講師の先生方やインストラクターの方々、そして、共に学



んで皆様のおかげと深く感謝しております。  
私は、名古屋の主に木造住宅の建設をしている小さな工務店で、現場監督として働いており、妻と三人の子供(長男十二才、長女十才、次男六才)に囲まれ、平凡ですが幸せに暮らしております。  
そんな私がKOA森林塾に参加しようと思った理由は、ちょっとしたきっかけから、今まで木を使い家を造るとい

う仕事をしているにもかかわらず、木がどんな人々の手で、どんな様子で育ち、どんな経過で市場へ流れてくるのか、又、現在の日本の森林がどんな状況なのか、全くと言っていいほど無知無関心でいた自分を恥ずかしく思い、森林についてもっと学ぼうと書籍を探していたところ、鳥崎先生の著書「山造り承ります」に出会い、私も何かをしなくては...。少しでも荒れてしまっている森林の為に役に立てないのかという思いが強くなり、自分自身で山造りを少しでも体験して自分の肌で現状を感じてみたい。そして、山造りについて学び、家造りの中へ何かプラスになることを見つけて出し、荒廃している森林の少しでも役に立ちながら、同じ様に荒廃している現在の日本の家造りを、自分の出来る範囲だけでも変えていくことが出来ないのか...。そんな思いでKOA森林塾に参加させていただきました。  
実際、森林塾に参加させていただき、想像していた以上に現在の日本の森林の状況が危ういこと。山造りはやる気さえあれば誰でも出来るし、ごちゃごちゃ言う前に木の一本を切ることが大切であるというところ。世の中には本当に沢山の山の方々が尊い志を持ち、森林を守る為に行動していることを学びました。そして、一番荒廃していたのは、山造りや家造りよりも、資本主義社会の中で、悪い方へ流されてきた自分自身の心であったのだと痛感しました。何より、自然に触れ、自然を愛し、自然に学び、自然を守ることが、人の心を大きくするということが、このことを合わせて学ぶことが出来ました。  
ところで、現在の日本の住宅の平均寿命は何年位かご存知でしょうか?一般的な住宅ローンよりも短く、三十年にも満たないそうです。構造の耐久性の問題ではなく、住み心地が悪く飽きてしまえば壊してしまうことが多いようです。欧米では六十~百年位の寿命に対し、日本の住宅の寿命が短い原因はいろいろ考え

られますが、私は、建主さんと実際に家を造る職人さんの距離が遠すぎて、ハウスメーカーの営業さんの顔しか知らないということ、そして、私を含めた家を造る側の人と、木を育て森林を守る人達との距離が遠すぎるのが最大の原因だと考えます。例えば、建主さんが、あの山主さんの育てたこの木で、あの人達と一緒に造ったこの家、ということに認識できたのであれば、必ずその家は長年大切に住んでいただける。そして、そのことが、間接的ではありますが、森林を守ることにつながるのであるかと思えます。そんな一昔前では当たり前のような家造りが今後の日本に増えていき、山主さんと建主さんが森林ボランティアによって結ばれるというような取り組みが出来たら素晴らしいのではないかと、私の中で、自分勝手な夢が膨らんでおります。  
ともかく、自分自身ももっと自然を学び、自分の周りの



リレー通信

「森のユートピアを求めて」

吉永 凱明



一人でも多くの人と共に自然を守り、「不都合な真実」から目を背けることなく、小さなことでも、私たちが何が出来るか考え行動に移す。現実には自分の置かれている立場でどんなことをしていけば、後世により良い環境が残せるのか。そんな当たり前のことを、当たり前といえるように、KOA森林塾で学んだことを糧に、「森の応援団」として、今後頑張っていきたいと思えます。  
皆様には、本当にお世話になりました。ありがとうございます。いろいろな山造りの活動の中で再会できることを楽しみにしております。

こんにちは。平成十八年の通年コースに高知市から参加した吉永です。この冬は記録的な暖冬で、二月の中頃には早くも庭先の「雪割り桜」(ツ



ま島崎先生の習機関や森林塾を調べるうちに、たまた

パキカンザクラ)が見ごろとなり、それではと「コマツナ」のタネをまくと、わっと芽を出して、もう春が来たのかという暖かさでした。

さて、私はソフトウェア関連の企業で四十年間走り続け、定年後一年間囑託として過ごしましたが、この終焉への助走ともいえる期間に、残る人生でなにをすべきかを初めて考えました。紆余曲折の末、若い頃、下草刈りで苦勞したこともあり、資源としても豊富で、環境問題の一翼を担う山仕事にかかわることにしました。様々な本や雑誌、さては林業技術ハンドブックまで買い込み、なんとか知識

を取り込もうとしました。しかし、林業は実践的なものであり、いかに仕事に近づくかが課題でした。

丁度そのころ森林環境税を活用した森林ボランティア大講義が開講され、「森づくりコース」を受講することができました。チェンソーも初めて経験し、ナタを研ぎ、ノコギリの目立てなどで身体を使ううちに、忘れかけていた記憶がよみがえってききました。

翌年は更に知識や技能を求めて、樹木医セミナーや林業主要技術講習会などにも参加し、実践の場として流域活性化センターのボランティア団体「森林救援隊」で技を磨くことにしました。しかし、伐倒がなかなか上達しません。やればやるほど思うようには来ません。また、一方で幼児や学童の環境学習、一般向けの森づくり教室のお手伝いをするうちに、生半かな知識や経験では駄目

著書「山造り承ります」に出会ったこともあり、これが日本一と確信し伊那へ向くことにした訳であります。

KOA森林塾では島崎先生、保科先生の含蓄のあるお話、早川講師の熱心なご指導、インストラクターの皆さんの周到な現場指導、毎回そうであったかと膝を打つこと多く、何をすべきかを知り得たことが大きな収穫でした。また、よき仲間からは伊那の温泉めぐり等、何かとお世話になりありがたく思っています。

現在は所有する一ヘクタールほどのスギ、ヒノキの山林を実習林とみため、間伐や作業道の取り付けをしています。また、樹木五十種の標本採集や、頭のサビ落しを兼ねて測量の学習にも取り組んでいます。

九月から十二月にかけての土日には、二つの流域のボランティア団体の間伐作業に参加しています。メインに参加する団体では毎回十五二十名の参加者で昨年は八回出勤し、十八ヘクタールの実績となつていきます。主に公営林が対象ですが、市町村合併で予算が縮小し、最近私所有林や収益間伐を行うなど、セミナー口化しつつあるように思います。

土日だけでなく平日の仕事はないものと、知人の親方



に尋ねますと、意外にも間伐の仕事は少ないとのこと。統計的には私も県下の民有人工林は二十九万ヘクタール、この内、三十五年生以下の森林は十三万二千ヘクタールです。内五ヘクタール未満の森林所有者が七十九%で、やはりと言わば、このあたり山があっても仕事が無理理由がありそうです。

先ごろ、森林組合の現場で団地化、作業道、機械化による収益間伐の話聞く機会がありました。熱心なコストダウンで大きな成果を上げられています。熱心なコスタダしい森林は資産でないとの話にシヨックを受けました。事業としては当然でしょう。しかし、作業道の開設も限界があり、多くの山々が取り残されましよう。アクセスの悪い森林も資産であり、いかに生かすかが、多くの山主を動かす要因になるつかと思われま

すが、間伐に取り組みつつ

何かを追っていけば、少しは先が見えてくるように思いますが。

アル・ゴアさんは「不都合な真実」の中で温暖化の危機は、危険とともに、かつてないほどの機会を差し出しているといっています。

いま、私のコーヒークップの上で雑誌の付録で作った外燃機関、スターリングエンジンがカップの湯気を熱源にして、カタカタと音をたてロッドを動かし、取り付けた円盤がぐるぐると回っています。森林が温暖化の低減に役立つと共に、多様に活用され、新たなエネルギー資源としてもスターリングエンジンや液化燃料として発電する等、持続的に循環し、人との共生が復活する日もそう遠くないように思っています。

早いもので、十八年度の森林塾も今回で終了。皆勤された方もそうでない方も一年間お疲れ様でした。この一年間で、森林に対する見方も大いに変わったのではないでしようか。

の塾生はよほどの晴れ男、晴れ女ぞろいのように、今後の展望も明るそうです。

そんな中、最近、森林塾を卒業された方が各地で行動し、活躍されているという話を聞くようになってきました。イントラとしてはうれしい限りです。そういう方が増えていくことで、そのうち山主の意識も変わり、山に対する取り組みも違ってくるのではないかと期待しています。

自分自身も、塾生の方々に遅れをとらないよう、しっかりと頑張らなくてはと身が引き締まる思いの今日この頃です。

「イントラ川島」

おわりに

通年コースの第一回目の植林が、ついこの間のような気がします。早くも最終回。一年間ありがとうございました。また、来年度もお会いできれば幸いです。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994



E-mail:  
sh-sakano@koanet.co.jp  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp